

ボランティア部活動紹介（「萌友」原稿）

NPO法人『萌友』から活動紹介の原稿依頼がありました。それを掲載します。

私にもできる！ ～ホーレス支援「炊き出し」に参加して～

D学院中学校高等学校 ボランティア部

（高3年 A M—「ボランティアを通して得たもの」）

私は幼いころから人見知りで、友達も少ないほうだった。また人と同じことをするのも苦手だった。そんな私が自分を変えるために、いろんな人と接することがしたいという思いと、震災からの復興に携わることがしたいという思いから、高校に入って、ボランティア部に入った。炊き出しボランティアや街頭募金をするにつれて、あらためて世の中にはさまざまな人がいるのだということを感じた。



準備 おむすびづくり



公園で 豚汁係

ホームレスの人もテレビでしか見たことがなく、なんとなく別世界の人のようなイメージがあった。しかし実際に話してみると本当に、普通の人たちという印象だった。それまで自分の中にあった偏見が、直接自分の目でみることで変わった。また、炊き出しをしている人たちは人に奉仕したいとか助けたいという気持ちで活動をすすんでおこなっていた。自らの利益を考えず行動している人を間近で見たことがなかったので自分もこんな人になりたいと思った。



この日は炊き出しに先立って、3, 1 1のお祈りを皆で輪になってしました

また募金活動に初めて参加したときは、高校生が募金活動をするのを快く思わない人もいて、怒られたときもあった。一口に復興のための活動といっても人によって感じ方、考え方が違うのだ。当たり前のことをその時初めて実感した。

内向的で人と会話したりすることをさけてきていた私にとって、ボランティア活動を通してさまざまな人と関わり合ってきたことは大きな進歩だ。確かに、その中にはつらい思いの時もあった。しかし関わり合いを通して、確実に自分の視野が広がっていった。今後も自分の意見も大事にしながら、それをいったんおいて他の人ならどう感じるだろうと考えて物事に当たりたい。

(1年 H K一炊き出し参加のふり返り)

炊き出しに初めて参加できて、ホームレスの皆さんとのふれあいに喜びと幸せを感じました。また同じボランティアで参加された皆さんと協力できて楽しかったし勉強にもなりました。ホームレスの皆さんは優しい人たちで、炊き出し場所の掃除をしてくれたり、雪払いをしてくれました。そのことを知ることができ、私自身の勉強になりました。今後も頑張りたいです。



衣類提供

(顧問 談)

20年近く前に仙台の学校に勤めた時、その学校の生徒を連れて炊き出しに参加することなど、当初考えてもみませんでした。しかし参加を募ってみると、必ず何人か集まりました。生徒は興味があったのだと思います。しかしそれが、活動の中心になり、今日まで続いていたことは、我ながら驚きです。

30年以上前に東京の山谷で夜回りに参加していたころ、ボランティアということばが自分のしている活動と縁があるとは思ってもいませんでした。心の底では、今も変わらないのかもしれない。ボランティアということばのニュアンスにこだわり、なじめずに、でも、このボランティアに関わる多くの生徒があり、それを嬉しく思い、顧問をしてきました。中高生の社会経験の最先端の一つだと思います。参加する生徒は、各自の心の課題に向き合い、それに取り組んで、成長してゆくようです。活動の中心に据えて、継続している意味がそこにあるのかなと思います。

(高橋 覚)

2015/03/09 (Mon) 09:44